

NEWSLETTER

No101519

統計学という言葉を一度は耳にされたことがあると思います。

英語では統計学を”statistics”と言います。

統計学は知らなくて結構です。いや知るべきではないと述べた方がいいと思います。それなら本レポートで統計学についてわざわざ紙面を割いて述べる必要はないだろうと思われるでしょう。実のところその通りなのですが、統計学を知っている方に向けて警告しておきたいことがあります。また、統計学を知らなくとも数字を扱う皆さんに統計の罠に陥っていただきたくないからお話ししておきたいと思います。

統計学については辞典などには以下のような説明があります。

「統計学とは、統計に関する研究を行う学問である。統計学は、経験的に得られたバラツキのあるデータから、応用数学の手法を用いて数値上の性質や規則性あるいは不規則性を見いだす。統計的手法は、実験計画、データの要約や解釈を行う上での根拠を提供する学問であり、幅広い分野で応用されている。

現在では、医学(疫学、EBM)、薬学、経済学、社会学、心理学、言語学など、自然科学・社会科学・人文科学の実証分析を伴う分野について、必須の学問となっている。また、統計学は哲学の一分科である科学哲学においても重要な一つのトピックになっている。」

(以上、ウィキペディアより引用。)

大事なのは数学的原理を深く理解することです。

統計学は投資、経済・金融、経営など分野でも利用されています。統計に頼る人が多いのを知っています。過去のデータから一定のパターンや確率を見出し将来起き得ることに当てはめることで安心を求める人もいるでしょう。

ナンバーオペレーションに関して私が伝えたいことを先に述べておきます：

ナンバーオペレーションは統計学に基づいていません。

ナンバーオペレーションは過去のデータに基づいて

いるのではありません。したがって過去のデータを取調べる必要はありません。

私に関する限り、統計学は自然科学ではありません。医学のような自然科学の分野でも統計学が広く利用されているのを私は知っています。統計学を否定するわけではありません。ナンバーオペレーションの理論体系を構築した“理論家”としてまた同時にその理論に基づいて実践しさらに私自身が育成したグループのスタッフの仲間とともに長年にわたって実績を積んできた“実践家”として主張させていただくなら、統計学は純粋な自然科学ではないのです。

統計ではなく数学的論理に頼ることです。

日本の高校の数学の教科書に統計学の分野があります。標準偏差(“Standard Deviation”)の概念が紹介され高度な理論が説かれています。標準偏差とは平均値からの散らばりを意味します。それは数学的な論理と技術を用いて算出されとても説得力があるように感じられます。しかし、ちょっと立ち止まって考えてみれば何かがおかしいと気づくはずで、高度な数学理論を知らなくともこれまで身につけた常識(広く多くの人たちが共通して知っている知識)を総動員して考えてみてほしいのです。(余談ですが、日本社会で広く知られている“ヘンサチ”は標